

この経験を踏まえ、全国の主要な港では地震に強い耐震強化岸壁の整備を進め、災害に強い港づくりを行い、もし地震などによる大災害が発生した場合には、被災者や救援物資の運搬をすることができるよう整備が進められています。

本県では、地震に強い耐震強化岸壁は熊本港において計画されているものの、残念ながらまだ整備には至っていません。

地震の他にも洪水や高潮など大きな自然災害が想定されます。昭和47年梅雨前線による集中豪雨により、天草上島地域を中心に甚大な災害が発生しました。このとき、被災地へ向かう道路も被災しており、救援物資や災害復旧のための車輛を運ぶため、当地にある港湾が活用されています。このように大規模な自然災害発生時の港湾の役割は非常に大きなものがあります。

また、港湾が有する広大なスペースを、非常時のヘリコプター離発着場や避難場所として利用することもできます。現在、地域防災計画において、水俣港や本渡港の緑地が、ヘリコプター離発着場や避難場所として指定されています。

2-7 港にはいろいろな船がいっぱい

港には貨物船やフェリー・旅客船の他に、大型船の活動を支援するポートサービス船（タグボートなど）、官公庁船（巡視艇や消防艇など）、港湾工事を行うための作業船、漁船やプレジャーボート（モーターボートやヨットなど）といった多種多様の小型船が在籍しています。これらの係留施設が不足すると不法係留や暴風時の船舶の流出による二次災害の発生などの恐れがあります。



三角港 際崎地区

熊本の古くからの貿易港である三角港には、三角海上保安部の巡視船や県漁業取締事務所の取締船といった官公庁船や、タグボートなどが多数在籍しています。

